

ほっかいどう福祉だより【しあわせ】

SHIAWASE



ふくしる

笑顔があふれる! 世界が広がる!
パラスポーツの魅力

MY WORK

経理や施設整備で
福祉の現場を支える

Discover Hokkaido

代々引き継がれる伝統の技
近藤染工場

INFORMATION

福祉職場説明会
開催



人気が高いボッチャは、年に2回、施設内で大会を開催しています

と、利用者さんの間に活気や一体感が生まれました。
ボッチャの楽しさを知った利用者さんたちの中で「もっと上手になりたい」という意欲が芽生え、地域の大会に出場。他の競技にも積極的に取り組むようになりました。パラスポーツを通じ、身体機能や体力が向



ボールを転がして相手コートに返すゴロ卓球（卓球バレー）。
やすらぎ園でのパラスポーツ活動の様子はYouTubeで配信。

園のホームページにある二次元コードから見るができます



「ふくしる」は、「福祉」と「知る」を合わせた造語で、福祉をもっと知ってほしい、という願いを込めました。

笑顔があふれる！世界が広がる！ パラスポーツの魅力

障がいの有無や年齢、性別に関係なく、多様な人が共に楽しむことができるパラスポーツ。リハビリテーションの二環として取り入れ、利用者さんの生きがいがづくりや社会参加につなげている指定障がい者支援施設「やすらぎ園」で、パラスポーツの魅力を取材しました。

可能性を引き出すために

東京2020パラリンピック競技大会での熱戦が感動を呼び、社会の関心が高まったパラスポーツ。身体機能の向上とともに、利用者さんの

社会参加や意欲を見出す機会にもつながることから、パラスポーツを取り入れる施設が増えていきます。社会福祉法人旭川育成会が運営するやすらぎ園では、中級パラス

ポーツ指導員の資格を持つ理学療法士の酒井祐輔さんと内村隆一郎さんが中心となり、2024年から本格的にパラスポーツに取り組み始めました。「利用者さんの能力や可能性をもっと引き出す方法はないだろうか、と考えていたときにパラスポーツの楽しさや効果を知り、当施設でも取り入れることにしました」と内村さんは話します。

利用者さんに起きた変化

初めに取り組んだのは、赤と青のボールを投げたり、転がしたりして、白いジャックボール（目標球）に近づくかを競う「ボッチャ」でした。ルールがシンプルで、座ったままでも、障がいによってはボールを足で蹴ったり、ランブという勾配具を使って転がしたりすることもできる。利用者さんの能力や可能性をもっと引き出す方法はないだろうか、と考えていたときにパラスポーツの楽しさや効果を知り、当施設でも取り入れることにしました」と内村さんは話します。

がいなど多岐にわたります。そうした人たちが能力に合わせて挑戦でき、共に楽しめるのがパラスポーツの良さ。中には30年ぶりに歩いたという人もおり、スポーツの持つ力に驚かされます。

現在は月に3、4回、土曜日を「パラスポーツの日」としています。競技数は増え、マラソンなどの陸上競技、フライングディスク、バドミントンのほか、いすに座ったまま行う「ゴロ卓球」や、ビーンバッグというお手玉のような袋を的に入れる「バグゴ」など、10種ほどを実施。他施設との交流試合やパラスポーツ体験会への参加、旭川ハーフマラソンへの出場など、外部との関わりも増え、利用者さんたちの世界が大きく広がってきました。



左/的を狙ってディスクを投げ、その正確性を競うフライングディスク競技の「アキュラシー」。的はフラフープで代用しています 右/「バグゴ」はルールが簡単で、みんなで盛り上がるができるそうです

パラスポーツの魅力を発信

パラスポーツに取り組むようになって約1年半。ある利用者さんは「スポーツが好きだったので、いろいろな競技に挑戦できるのがとても楽しい。みんなと体力づくりもできて、今が幸せ」と笑顔で話します。

劇的ともいえる利用者さんたちの変化を知ってもらおうと、今春からホームページやYouTubeで情報発信を始めました。「パラスポーツに興味を持ったら、ぜひ当施設に見学に来てほしい」と酒井さん。内村さんも「今後は他施設との交流にも力を入れ、パラスポーツの魅力を伝えていきたい」と目標を語ります。感動と元気を与えてくれるパラスポーツへの取り組みは、これからも続いています。

※145号(冬号)では、パラスポーツの人気競技を解説予定です。



左/地域のモルック体験会などにも参加し、施設外でのつながりを育んでいます 右/利用者さんが、よりレベルの高い大会に出場できるようにサポートすることも目標の一つです



酒井祐輔さんは、「パラスポーツを通じ利用者さんが変わる様子に感動した」と言います

きるため、身体機能に関係なく誰でも楽しめる人気の競技です。それまで利用者さんたちはスポーツで盛り上がった経験がなく、初めは消極的で、競技中も静かでした。そこで酒井さんたちが心がけたのが、大きなリアクションをすること。「好プレーが出たら大きな声でほめたり、拍手をしたりすることで、利用者さんたちの表情がどんどん変わっていききました」と酒井さんは言います。応援の声を掛け合ったり、うまくできたときには喜び合ったり

社会福祉法人旭川育成会
指定障がい者支援施設

やすらぎ園

旭川市春光台4条11丁目5244
TEL.0166-54-5222

<https://www.asahikawaikuseikai.or.jp/yasuragien.html>

障がいのある人に日常生活の支援や余暇活動などを行う「生活介護」と、居住の場として夜間の生活支援を行う「施設入所支援」を提供。リハビリテーションを重視した取り組みを推進しています。





法人事務局の総務部長として、道内各地にある施設のサポートを担っています

信念をよりどころに

今春、法人事務局の組織改編が行われ、総務部と人材支援部の二部体制になりました。佐藤さんは総務部長として経理業務、施設整備業務、システム管理などを担っています。施

設での監査業務などもあり、地域に足を運ぶ機会も多いといいます。仕事をする上で、佐藤さんが心がけてきたのが、「判断を迷ったときは、利用者さんのためになることを第一に考える」ということです。「そ



福祉村は利用者さんとの触れ合いが多いことも魅力の一つでした

れが私の判断や行動のよりどころになっています。職員にも、利用者さんのために考えて行動するのなら間違うことはないよ、と伝えています」

近年、福祉業界では人手不足が課題になっています。佐藤さんはこれまで多くの施設で働いてきた経験を通じて、「コミュニケーションや働きやすい環境づくりの大切さを肌で感じてきました。魅力ある職場環境をつくるため、今後は人材支援部と連携し、法人内のさまざまな施設で働く職員同士が、顔の見える関係を築く機会を増やしたいと考えています。

最後に、佐藤さんは自身の経験を振り返り、「確かに、福祉の仕事は大変なこともあります。しかし、人の役に立つという喜びは大きく、仲間や利用者さんに助けられることも多い。何より人に必要とされる、かけがえない仕事だと思っています」と福祉の世界で働く魅力を笑顔で語ってくれました。

社会福祉法人 北海道社会福祉事業団

(法人本部) 札幌市中央区大通西5丁目11大五ビル6階
TEL.011-271-5531
<http://www.dofukuji.or.jp>



1968年社会福祉法人北海道社会復興事業協会設立、1973年社会福祉法人北海道社会福祉事業団に改称。北海道から移譲された「太陽の園」「福祉村」をはじめ、グループホームや地域生活支援センター、生活介護事業所など、幅広い施設を運営。障がいのある人が自立し、安心して地域で生活していくための多様な福祉サービスを提供しています。



写真は、札幌市南区の福祉型障がい児入所施設「もみみ学園」

MY WORK

利用者さんのためにという信念を胸に 経理や施設整備で福祉の現場を支える

福祉の現場を裏で支えているのが、経理や施設の維持管理などを担う事務職員です。さまざまな障がい者施設の運営をサポートしてきた職員に、心に残る出来事や働く上でのポリシー、仕事の魅力などを聞きました。



1994年に北海道社会福祉事業団に入職した佐藤さん。仕事で人の役に立てるなら、と福祉の世界に飛び込みました

福祉の仕事に魅力を感じて

障がいのある人に幅広い福祉サービスを提供している「社会福祉法人北海道社会福祉事業団」。札幌市の中心部にある法人事務局では、地域の福祉を担う施設の運営を、経理や施設整備、人材などの面からサポートしています。2024年に法人入職30年を迎え、今年の春から総務部長を務める佐藤真(まこと)さんは、「入職以来、さまざまな施設の業務を経験し、常に新鮮な気持ちで仕事に取り組むことができた」と振り返ります。

佐藤さんが同事業団に入職したのは、商業系の短期大学を卒業した翌年。明確な目標もなくルート営業の仕事に就いていましたが、父親から勧められたことをきっかけに福祉の世界に入りました。「福祉行政に携わっていた父の話を聞いて育ち、福祉は人の役に立つ仕事というイメージを持っていました。北海道社会福祉事業団は、伊達市や道東などにも施設があり、いろいろな地域で働けることも魅力でした」

事務職として現場を支える

最初に配属されたのは、北海道から運営を受託していた岩見沢市の「福祉村」でした。佐藤さんは、脳性

まひなどで重度の身体障がいがある利用者さんのケアに携わりました。福祉の仕事は未経験でしたが、先輩職員に付き、実際に業務を行いながら介助方法などを学びました。

「いきなり現場に入ることになり、戸惑いもありました。でも、同年代の仲間と職員住宅で生活をしながら働くのは楽しい経験でした。また、利用者さんから、負担のからない介助方法を教えてもらったり、優しい言葉をかけてもらったりしたこと心の支えになりました」

佐藤さんは5年間介護業務に携わった後、福祉村の事務を担当。以来、事務部門を歩むことになりました。2005年には法人事務局に異動し、北海道などから受託運営していた施設の譲渡を受ける準備を進めました。その後、知的障がい者の通所施設で事務業務に携わり、送迎なども行いました。「意思の疎通が難しい利用者さんもありましたが、相手に寄り添い、思いをくみ取るときに、福祉村での現場経験が役に立ちました」

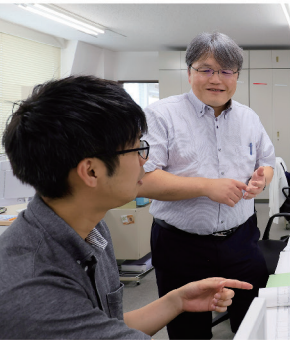
新しいことに挑戦する意義

大きな経験になったのが、2012年に札幌市でのグループホームの開設準備を任されたことでした。限

りある予算の中で工夫を凝らし、利用者さんにとって安心で快適な住居を「からつくる」という挑戦に、佐藤さんはワクワクするような思いで臨んだといいます。

その後、伊達市内にグループホームを多数運営する「だて地域生活支援センター」や、知的障がいのある人の入所通所施設「太陽の園」を経て、福祉村の総務課長に就任。「入職当時、何かと気にかけてくれた利用者さんたちとの再会がうれしかった」と笑います。また、2018年の北海道胆振東部地震では、地域の人たちなどの協力によって施設設備を早期に復旧でき、長年にわたって築いてきた絆の大切さを実感したそうです。

2020年に法人事務局に戻った佐藤さんは、既存施設の移転など、大型のプロジェクトを担当しました。「コロナ禍や建築コスト高騰などの影響を受け、苦勞もりましたが責任のある仕事を任されるやりがいや達成感は大い」と話します。



職員が働きやすい職場環境をつくることも目標の一つです

株式会社近藤染工場
旭川市1条通3丁目右1号
TEL.0166-22-2255

8:30～17:00
日曜・祝日休（土曜不定休あり）
http://www.kondo-some.co.jp



左/代表取締役専務の近藤耕介さん



中/「染」の文字がひときわ目を引く社屋



右/店舗では手ぬぐいや風呂敷、トートバッグなどを販売しています

代々引き継がれる伝統の技

近藤染工場

伝統的な染めの技法にこだわり、大漁旗やのぼりなどを職人が一つ一つ時間と手間をかけて作り上げている近藤染工場。引き継がれてきた技術とものづくりへのこだわりを伺いました。

Discover Hokkaido
ASAHIKAWA

明治31年創業の老舗染工場

旭川市の中心部で、長年にわたり染め物業を営む企業があります。1898年創業の近藤染工場は、旭川で最も古い染め物工場として、伝統の技を代々受け継いできました。「創業当初は藍染めのはんてんや、のれんなどを作っていました。やがて多色の染料を用いるようになり、1950年頃からは大漁旗が主力商品になっていきました」と代表取締役専務の近藤耕介さんは説明します。

職人が一枚一枚仕上げる大漁旗は「華やかで海原に映える」と評判を呼び、全道から注文が舞い込みました。現在は新造船の進水式で使われることが主ですが、今も絶えず注文が入ります。近藤さんは「大切な船のお披露目の時に、当社の大漁旗を掲げていただけるのはとても光栄」と笑顔を見せます。

手仕事への強いこだわり

近藤染工場では、下絵を描くことから白地を残す部分に防染のりを置く「のり置き」、染め、水洗い、縫製まで、すべての工程を手作業で行います。特にこだわっているのが、今では希少な刷毛引きによる「本染め」

ものづくりを支える職人技

作業場を訪ねると、職人さんたちがのり置き作業を行っていました。この作業は大漁旗の仕上がり左右する重要な工程とされ、熟練の技が求められます。下絵に沿って手際よくのりを置いていく技術は、まさに職人芸。滑らかな曲線や複雑な文字も一気に仕上げていく手元に見入っていました。

職人さんが一連の工程を身に付け、一人前になるまで5年から10年かかるといわれています。「現在、当社の職人は7名。長い人では30年以上、染め物に携わっています」と近藤さん。夏は暑く、冬は寒い上、作業中はずっと立っているため、決して楽な仕事ではありませんが、ものづくりへの強い思いを持つ人たちが、伝統を守り続けてきました。「昨年には新たに女性加わり、職人の道を歩み始めています。」



刷毛引き本染めという伝統的な技法を守り続けています



下絵に沿って防染のりを置いていく「のり置き」。繊細な技が求められる工程です

刷毛引き本染めとは、はけを使って布地に染料を浸透させる技法のことで、プリント染めとは異なり、裏側まで色鮮やかに仕上がるのが特徴です。大小のはけを使い、細かな部分まで丁寧に染めるため、繊細さや手作業の温もりが感じられます。

「職人が文字や図柄を描くのも当

です。

伝統を守り、次に伝える

近藤染工場では伝統的な技術の魅力を広げるため、染め物体験なども受け入れています。「文化を継承し、次に伝えていくことも大切」と近藤さんは言います。

近年は、主力の大漁旗やのぼり、はてんなどに加え、大漁旗柄のバッグや前掛け、撥水加工を施したアウトドア用のバッグを売り出し、好評を得ています。また、外部のデザイナーと連携し、手ぬぐいや風呂敷にモダンな柄を取り入れるなど、新し



左/職人さんたちが手を休めることなく作業を進めていました 上/北海道の四季や風景をモチーフにした手ぬぐい(1,760円) 下/撥水加工を施したコンパクトなバッグ「サコッシュ」(4,950円)

いニーズの開拓にも取り組んでいます。長い年月を超え、伝統の製法を貫いてきた近藤染工場。これからもその姿勢は変わらない、と近藤さんは語ります。「より良いものを作り続け、お客さまの信頼に応えること。それが伝統を引き継いでいく私たちの役目だと考えています」

社の自慢です。手書きの文字には、デジタルのフォントにはない力強さがあります。そこに職人の個性が出たり、染めの段階で少し色がにじんだりするのも、手仕事ならではの味わい。既製品にはない魅力が、お客さまに愛されているのだと思います」と近藤さんは話します。

旭川立ち寄りグルメ

アラビゴ珈琲店

自家焙煎コーヒーと豊富な食事メニューが人気のレトロな喫茶店。日替わりのアラビゴ弁当(1,280円、平日ランチ1,000円)は野菜たっぷりのおかずが評判。オムライス(1,300円)、ハンバーグ(1,480円)
旭川市忠和4条7丁目3-2 TEL. 0166-61-4140
9:00～20:00ラストオーダー 火曜休(祝日は営業)

ソフトクリームのから

地元産の牛乳を使ったソフトクリーム店。添加物を使わず、牛乳の風味が生きたサラッとした味わいが魅力。ミックスソフト牛乳&抹茶(420円)、牛乳ソフト(400円)、抹茶ソフト(420円)
旭川市神居町富沢278-2 TEL. 0166-62-6202
9:00～18:00(9月以降～17:00) 月曜休(10月中旬～4月下旬休)

道の駅あさひかわ

併設のフードコートでは、地元の人気ラーメン店「梅光軒」と「よし乃」を味わえる。売店では旭川の銘菓や工芸品などの販売も。梅光軒・旭川醤油ラーメン(1,030円)＝写真＝、よし乃・みそラーメン(1,000円)
旭川市神楽4条6丁目1-12 TEL. 0166-61-2283
9:00～21:00 年末年始休 ※店舗により営業時間・定休日は異なる



※料金・価格は税込みです。価格は6月取材時点のもの。いずれも変動の可能性があります。

SHIAWASE クロスワード

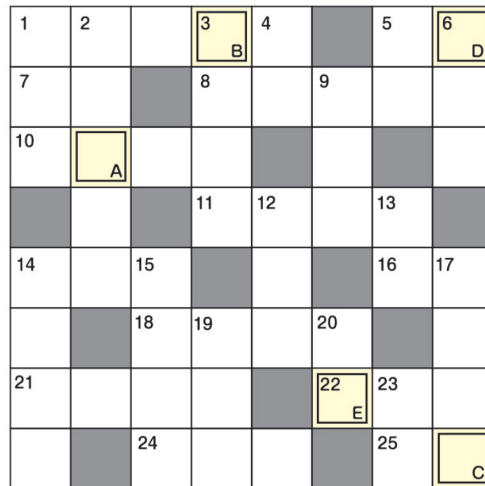
Q.二重マスA～Eでできる言葉は何でしょう？

[タテのカギ]

- 花火大会の掛け声で「たまや!」と双壁
- 葉月⇒長月⇒?
- 月賦と同義語です
- 九州に7、日本に合計43
- 今年はヘビ
- ローマ、算用、天文学的
- 証明せずとも極めて明らか、○○○の理
- 大学卒業のため必要数をしっかり取って
- ポッチャの球の色、白と赤とナニ?
- 今年収穫される米
- サーフィンが波乗りなら、クルーは?
- 「西瓜」はスイカ、「南瓜」は?
- がいくとは、納得すること
- 書道で使う液体
- ウナギを食すのが定番、土用の○○の日

[ヨコのカギ]

- いつも診察や治療を受ける同じ所
- Eの反対がWなら、Nの反対は?
- 「しろがね」とも呼ばれる金属
- 偉大な業績を指す言葉で、ピラミッドの日本語表現でもあります
- ドジョウとゴボウを入れて○○○○鍋
- 引退や退職を示す言葉。自動車レースなどを棄権する意味も
- シーツのこと
- 明治初期、汽車の通称は○○蒸気でした
- ベンチやソファを日本語で
- 自分で背中を掻く、昔ながらの道具
- 家族や近い親類など、ごく親しい間柄
- 世界一やふじ、王林といった品種が
- 目を動かさずに見ることのできる全範囲



こたえ

A	B	C	D	E
---	---	---	---	---

作: 石田竹久

手工芸品詰め合わせセットを 20名様にプレゼント!



合同会社おうらが運営する就労継続支援B型事業所「ばうむ」(釧路市)で心を込めて作った手工芸品の詰め合わせです。内容は、自然の素材を使用したリース、電子レンジで温めて繰り返し使える米ぬかのカイロ、手編みのアクリルスポンジ、地球に優しいエコたわし、陽気な顔のクマストラップ、可愛い刺繍入りコースター2枚の計7点です(※色・デザイン等は写真と異なる場合があります)。

お問い合わせは「ばうむ」、電話0154-65-6415へ。

※春(4月)号の答えは「フキノトウ」でした。

当選者の発表は、プレゼントの発送をもって代えさせていただきます。

応募のきまり

締め切り:2025年8月31日(日)23:59

応募方法:右の二次元コードよりご応募ください。

ハガキの場合は①クロスワードの答え②郵便番号③住所④氏名(フリガナ)⑤性別⑥年齢⑦電話番号⑧お勤め先⑨本紙の感想を明記の上、〒060-0001 札幌市中央区北1条西7丁目プレスト1・7(4階) 北海道民間社会福祉事業職員共済会「しあわせ」係までご応募ください。

※皆さまから寄せられたご感想などは本紙に掲載させていただく場合があります。掲載された方には「しあわせ」オリジナルグッズをプレゼントします。



読者さんからのお便り

Voices

春号(142号)を読んで

様々なハラスメントが社会問題になっている昨今、カスハラも他人事ではありません。イラストを交えて伝えるなど、「ふくしる」で紹介されていた対応方法を取り入れてみたいと思います。
(小樽市・Kさん)

「MY WORK」の記事から、子どもたちにまっすぐに向き合い、成長を支えていく保育士さんの思いが伝わってきました。職種は異なりますが、私も仕事を頑張りたいと思いました。
(帯広市・Iさん)

地元江別の「ノースライブコーヒー」さん、気さくで暖かいお人柄が伝わりました。「SHIAWASE」を片手に行ってみようと思います。
(江別市・Gさん)

令和7年度 第2回福祉職場説明会 開催案内

福祉の職場へ就職を希望される方へ向けて、福祉職場の仕事の魅力や具体的な情報提供を行っています。就労をお考えの方、関心のある方は、お気軽に足をお運びください。

【開催日時】9月7日(日)9:30~14:30(受付開始9:00)

【会場】札幌ビューホテル大通公園(札幌市中央区大通西8丁目) 地下2階ピアリッジホール、クレストホール

【内容】参加法人の求人プレゼン/個別面談/各種相談コーナー(資格・ハローワーク)/ブース訪問ラリーなど

【問合せ先】北海道社会福祉協議会 北海道福祉人材センター (直通電話)011-272-6662

※荒天候等により、やむを得ず中止・変更となる場合は、北海道福祉人材センターのホームページでお知らせしますので、ご確認のうえご来場ください。

詳しくはこちら!



各種公益セミナーを開催します 参加費無料

北海道民および本会会員を対象に、研修による学びの場を提供しています。詳細は、本会ホームページTOP「セミナー・研修会」からご確認ください。

【オンデマンド配信】(毎月異なるテーマを1カ月間配信しています)

配信月内であれば、いつでもお好きな時間に視聴することが出来ます。

配信月	配信テーマ
8月	部下の行動変化を促すフィードバック
9月	クレーム対応
10月	心理的安全性の作り方

※配信月、テーマは現時点での予定となります。変更があった場合はご了承ください。

【オンライン研修】

Webミーティングアプリ「Zoom」を使用したオンライン開催です。グループワークがございますので、他の参加者と意見を交わし、知見の共有ができる研修となっています。

【日程】10月24日(金)10:00~16:45

【テーマ】正しい文書の教え方研修
(中堅職員~管理職員向け)

※8月中旬頃より本会ホームページにて募集ページに掲載予定。

詳しくはこちら!



ほっかいどう福祉だより「しあわせ」

SHIAWASE

発行/一般社団法人 北海道民間社会福祉事業職員共済会

札幌市中央区北1条西7丁目 プレスト1・7 4階

TEL.011-251-3828 FAX.011-251-3848

https://www.kyousaikai-shiawase.jp [Email] kouhou@kyousaikai-shiawase.jp